

# 神戸の風色

KOBE●FUSHOKU

堀内初太郎 NO.59







From Kobe with Love

10  
ANNIVERSARY  
LIZA CO., LTD.



## さりげなく自己主張する知的エレガンス。

〈リザ・サロン〉は、素敵な着こなしを通して

これからの女性の生き方をはばひろく提案いたします。

神戸の洗練された感覚をベースにしたファッションスペース

〈リザ・サロン〉へぜひお出かけください。



リザはファッションを通して豊かな生活を考えます

# LIZA SALON

〈リザ・サロン〉神戸本店

神戸市中央区三宮町1-9-1三宮センタープラザ3階 TEL 078 (391) 6806

全国〈リザ・サロン〉のご案内／札幌・仙台・水戸・勝田・所沢・船橋・東京・川崎・横浜・静岡・名古屋・京都・大阪・神戸・岡山・広島・松山・北九州・大分・熊本・宮崎・鹿児島・沖縄

# 〈秋色〉へのプレリュード...

深まる秋はパールカラー。  
やさしさ色にあなたをそめて...



**KINOSHITA PEARLS CO., LTD.**  
WHOLESALE & EXPORTER of Cultured Pearls

*Order Salon*

〒650 神戸市中央区山本通1丁目7-7 (北野坂)

TEL (078) 221-3170

10:00AM~6:00PM 木曜日定休



*Good Taste Collection*  
in  
Sanohe



トアロードサノヘ

TEL.078・331・1952



ENRICA MASSEI

BEPPE  
BONDI

<sup>Bernard</sup>  
Perris

MARIANNE DAVID

philippe salvet



リンクスの売り物はエレガンス。ところは浪漫通・元町です。



港町・神戸の浪漫を今も感じさせる街、元町。“リンクス”は、こんな素晴らしい元町にオープンできて大感激です。ぜひお仲間に入れてください。ところで“リンクス”の売り物はエレガンス。そう元町にぴったりなのです。もちろんファッションの店ですから服には自信があります。とくに大きなサイズなら、もう大自信です。ぜひ一度ご覧においでください。



エレガンスサロン

リンクス

神戸市中央区元町通2丁目

(078)-331-0822

リンクスのサイズはあなたにジャストフィット。11、12、13、15、17号と幅広い展開です。

この秋とりたての新栗です



新栗

マロングラッセ

秋が生んだお菓子の芸術品

まわりがセピア色に染まる季節。秋の味覚に代表される品格ある新栗の登場です。神戸風月堂のマロングラッセは世界で最も品質の良い日本の栗だけを使いました。だからこの秋とりたての新栗ということを強調できるのです。まろやかな甘さと、コクのある風味。まさに最高級の銘菓です。



神戸風月堂

ミニ ゴール  
本社 神戸市中央区元町通3丁目3-10 ☎ (078) 321-5555



これは神戸を愛する人々の雑誌です  
 あなたのくらしに楽しい夢をおくる  
 神戸を訪れる人にはやさしい道しるべ  
 これは神戸っ子の手帖です

## 11月号目次 ● 1984・No.283

表紙／小磯良平

セカンドカバー／スケッチブックから(71)／ヨーロッパを描く／西村 功

9 神戸っ子'84／取坂由起子・大野伸二

12 ある集い／神戸帆船模型の会・芦名安人

15 コウベスナップ

16 エトランセの輪郭(33)／南 和好

18 神戸の風色(59)／堀内初太郎

29 わたしの意見／平島達司

31 随想／高石 務・鍋島直純・川池勝志

34 夢エッセイ(Ⅱ)／野口武彦

36 こうべ味な旅(5)／東 君平

39 地域文化論(その63)／

40 須田利太インタビュー／私の絵は、8歳の絵なんです。

46 キャンペーン／神戸ブランドで彫刻作品を世界に輸出しては。

52 神戸トータルファッションフェア

—神戸を語るファッションフェア'84

HUMAN・LIVE・CREATIVE—

54 ふたたびプロフェッサーPの研究室／岡田 淳

56 ファッションレポート／リザ・ヨーロッパエクセレント コレクション'84-'85

'84秋冬魔女コレクション

58 第1回「神戸の新しい風景」フォトコンテスト入賞者発表

61 経済ポケットジャーナル

62 話題のひろば1 第8回井植文化賞受賞式

121 チュー太郎の会

64 KOBE LIVING TOMORROW(1) 座談会「神戸っ子の居住空間考」

68 出合いの旅／林 恵介

74 10周年を迎えて 座談会「若さとまごころの通いあう街サンこうべに」

76 ファッションスナップ

84 NEUE MODE MARCHEN(81)／篠原順子

86 もうさんのHYOGO・WALK(7)／マンガ・高橋 孟

88 小山乃里子の華麗なるKOBE見てある記／阪急フレイブスバリーク優勝

106 EVENT・IN・KOBE 神戸ポートアイランドにコスモポリスを夢見る

108 クラフト・ルポ お書のふるさと奈良・吉野・下市を訪ねて

117 コーヒーブレイク

118 動物園飼育日記(228)／亀井一成

122 有馬歳時記(11月)

124 神戸を福祉の町に(131)／橋本 明

127 神戸の集いから

128 元町キャンペーン(座談会)／元町まづくりを考える

130 おしゃれアタックルポ／コスメチックス神戸を訪ねて

132 兵庫界隈記／演劇集団 劇団「どろ」

134 ふらっしゅ・ばっく(49)／淀川長治

136 KOBE MODERN CULTURE

138 コスモ・ファンタジー／数1000回の明日こそ(3)／佐藤晴美

144 KFSニュース

146 神戸百店会だより

148 ポケットジャーナル

152 小関三平の「神戸おもしろ風俗記」

156 びっといん

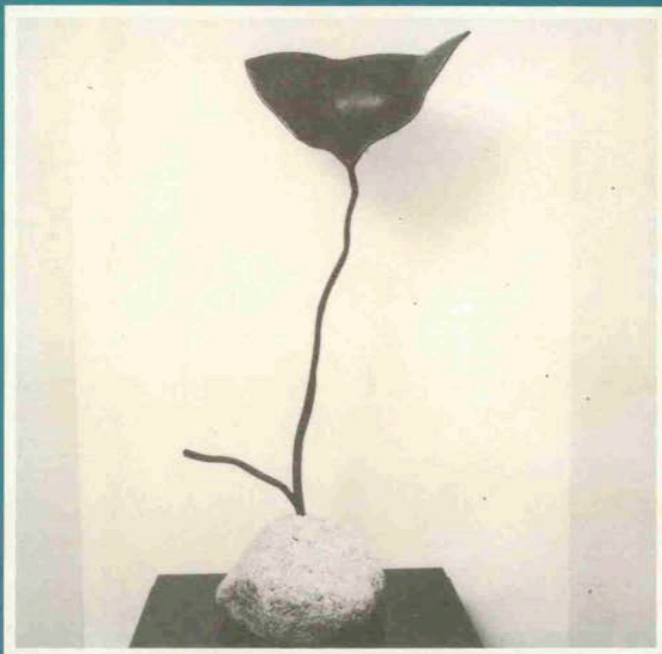
158 連載小説／薔薇の堂音(第6回)／菊池佐紀／絵・池内 登

178 連載エッセイ／風のファンタジア(11)／吉村由美

182 海船港／帆船「新日本丸」を訪ねて

カメラ／米田定蔵・橋本英男・池田年夫・坂上正治・田村 康

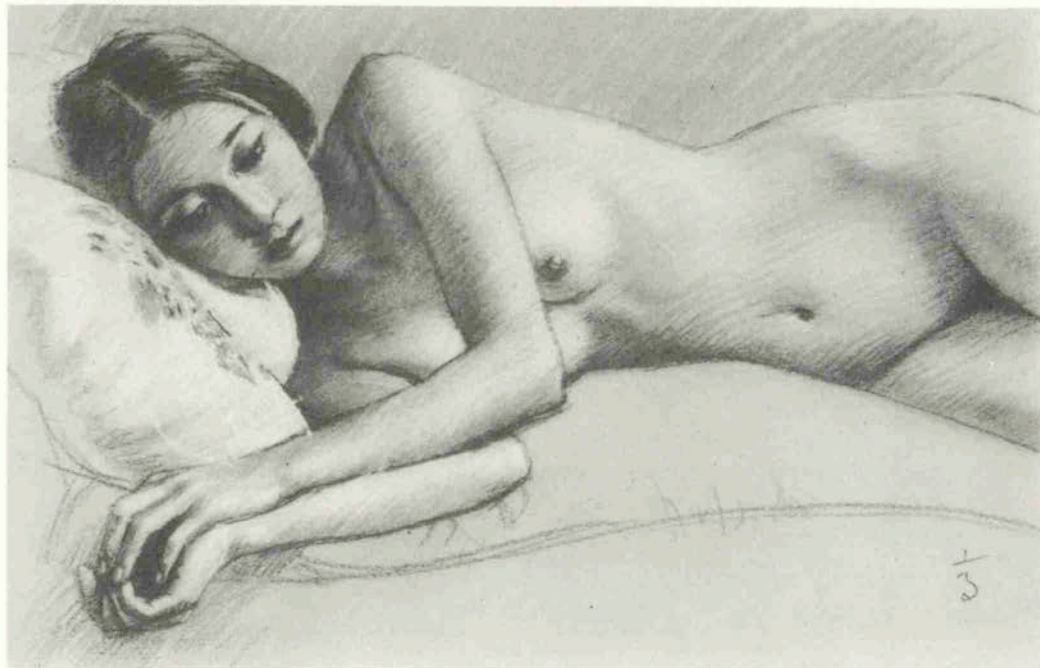
松下孝一・松原幸也・泊 浩久



目次作品／宮崎豊治「身辺モデル」



# 女、鼓動てますか。



女。——それは艶化粧。高塚省吾／絵

業界で脚光を浴びている当社独自の瘦身美容。

エステティシャンが考え、素肌美だけを追求した“ハミール美粧品”。

コスモポリタンシティ、神戸・元町を拠点に全国各地へ、

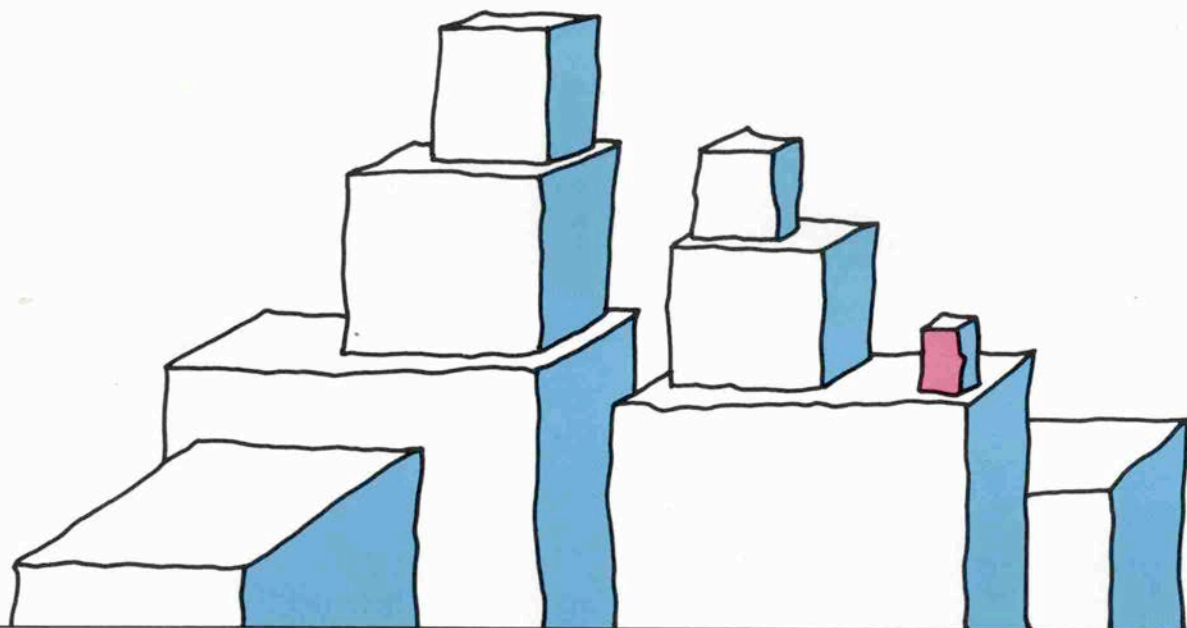
次々とオリジナル・ブランドを発表。

今回は2時間で5cmダウンの瘦身美容。またはお肌の悩み(にきび、しみ、かじわ、かぶれ等)をお持ちの方のために、特にやさしいオリブオイルのフェイシャル美容を、お一人様一回限り無料にてお試し頂けるよう企画致しました。(神戸店のみ)  
なお、二葉店の前には電話にてご予約下さい。

<p>国鉄・阪神元町駅</p> <p>三軒書店街 南町</p> <p>●大丸 神戸駅</p> <p>コスメチックス神戸コーポレーション</p>	<p>札幌・仙台・渋谷・原宿・横浜・名古屋・京都・大阪・和歌山・神戸・広島・山口・徳島・高知・博多</p> <p><b>コスメチックス神戸コーポレーション</b></p> <p>神戸市中央区栄町通1-2-29 豊和ビル3・4F</p> <p>無料体験シリーズ予約係 078-391-4077(代)</p> <p><b>スタッフ募集中</b></p>
---	--

お試し券  
神戸つ子11月号

# WINTER COLLECTION



ショッピングは、楽しみである。

リザ・サロン

ベンチ

Caro's

VICTOIRE

ダイアナ

サイズショップダイアナ

ルベール II

ランプ

ゲルラン

東京屋

新宿・高野

BONフカヤ

ココ山岡

ブランコ

ホットマン

三愛

電話078(332)1698

FASHION  
PARK

神戸・三宮(さんプラザ・センタープラザ)

3F

営業時間 ———— A.M11:00~P.M8:00

# 心地よい病院にイメージチェンジ



清潔な待合室



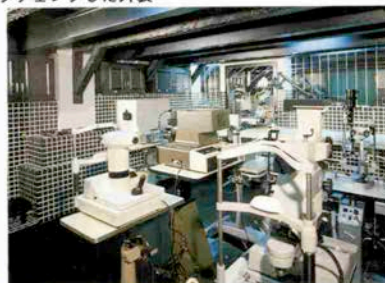
イメージチェンジした外装



ステンレス張りの検眼室



診療室



近代的な設備

「病苦を癒すのが医師の使命であれば、その建物、設備についても、出来る限り、近代化し、気分を和らげ、楽しくなる雰囲気作りも大切。——例えばメルヘン調に。こんな気持ちからミツワさんに診療所改造を依頼しました。結果は写真の通り。「未来の診療所」の先取りと、全国各地からの反響も大きく、喜んでいます。

有沢眼科院長 有澤 武

企画・設計・施工

INTERIOR DESIGN  
**MITSUWA**

〒651 神戸市中央区割塚通5丁目2の18

上村ビル内

電話 神戸 (078) 222-2011(代)



☆私の意見

# 神戸の音楽活動 の拠点となる 音楽博物館を

平島 達司

〈松蔭女子学院大学教授  
松蔭女子学院短期大学〉



私は、本来専門は化学なのですが、音楽マニアが昂じて、オーディオに二十年ばかり熱を上げ、それからオルガン作りに転じ、現在は調律の研究を主にやっています。

音楽というのは、昔は幾何学、算術、天文学とともに理科学系列にあったのです。それというのも、物理学者が調律法を生み出していたからであり、そんなところから、科学史の切れ目と音楽史の切れ目が一致するという興味深い現象が起っています。

最近ある楽器メーカーで、スイッチを切り換えるだけで音律の違いを弾き分けられる便利な機械が製作され、音楽の根本である音律の問題、調律法などが改めて考え直される時期が来たといえます。

私はかねてから、こういった音楽の基礎が研究でき、一般の方々に音楽を親しんでいただける「音楽博物館」というものが神戸に欲しいと思って来ました。

神戸は、音楽には縁の深い土地です。須磨の一弦琴をはじめ、宮城道雄、田中正平、といった音楽史に大きな位置を占める方々が生まれています。ですから、神戸に音楽博物館が出来たら、まず、神戸出身、あるいはゆかりの音楽家のリストを整備する。そして個人的に所蔵している音楽関係資料、楽器などを寄託していただき、一括所蔵する。しかもそれらを、音を出せる状態で陳列する。また、海外の民族楽器なども随時つけ加えていくのも良いと思います。さらに、博物館内に小ホールを設けて、音律問題などをテーマとした講演会を開いたり、発掘された楽器、いろいろな調律法による楽器を使って、実験的な音楽会をやってみることも、博物館の存在をさらに意味あるものにするのではないでしょうか。

場所としては、以前考古学博物館があった須磨離宮公園が良いと思います。あそこならば、神戸フィルや室内楽奏団のような大規模な演奏会も、公園の中で出来ます。そういったいろんな可能性を持った、神戸の音楽活動の拠点となり得る音楽博物館を、ぜひ建てたいですね。

# Sky Night Lounge

神戸の夜が深呼吸すると  
夜の港が語りかけると  
神戸の夜が深呼吸すると  
影絵の六甲が語りかけると  
あなたの夜が深呼吸すると  
星の王子様が語りかけると



## ★スカイ・ナイトラウンジ

11階

★time=20:00~

22:30

### おのみのものとスナック

名種ビール	.....¥650~
スコッチウイスキー	...¥800~
アメリカン	.....¥800
アレキサンダー	.....¥1,300
各種カクテル	.....¥800~
ガーリックトースト	...¥600
セロリースティック	...¥600



## 神戸オリエンタルホテル

神戸市中央区京町25番地  
TEL 078(331)8111



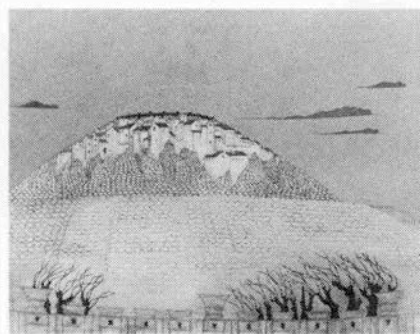
## 秋と冬のすき間のひととき

熱いコーヒーとバター風味豊かな  
ハイデザントで過ごす。



ユ-ハイム

# 随 想



カット／上尾 忠生

## ワインと成人病

高 石 務

△高石内科クリニック 医学博士▽



古代ギリシャでは、紫水晶に酔いを防ぐ力があると信じられていて、お酒を飲むときにはいつも身に付けていたといえます。そこで、この石を、ギリシャ語でアメジスト、*a* (無い) + *methys* (酔う) + *+* (もの) と名付けたのです。最近、米国ハーバード大学で、*antithyctic agent* (酔わない薬) なるものが開発されました。きっと、必要があつての発明でしょうが、何のためにお酒を飲むのかわから

なくなりそうです。いずれにしろ、古今東西、アルコールとのお付き合いには、とかく苦勞してきたようです。

ところで、人の健康とワインにまつわる格言や言い伝えの類いは数多くあります。なかでも六〇〇年も昔のこと、大司教さまの生命を救ったモーゼルの名酒、ベルンカステラー・ドクトールのことは多くの人の知るところ。ところが、「ドクトール」の隣の畑から採れる「墓場」という名の、これまた美味なるワインのあることはあまり知られていません。いかにもドイツ人らしい無骨なユーモアがほほ笑ましい。ワインとは、まさに生と死をさ迷うが如き飲みものなのでありましょうか。

時は移って現代。言い伝えに代って科学のメスが入ります。ここ

に、ワインと成人病の関係を真剣に研究しているイギリスの学者グループがあります。心臓病、ことに狭心症、心筋梗塞といえ、欧米では死因のトップ、わが国にあつてもナンバー・スリーに位する成人病の重鎮。これがワインによって予防できそうだというのです。ワイン好きの熟年には、たまに愉快な話。専門誌 *Lancet* に寄せた彼らの論文によると、先進工業諸国では年間一人当たりのワイン消費量と、五十五歳から六十四歳の男性の心臓病による死亡率は、みごとに逆比例しているのです。ワイン最多消費国のフランス、イタリアではこの種の死亡率は最低で、消費量の少ないスコットランドとフィンランドでは最高の死亡率になっています。しかし、ワインとともに成人病予防に励む人達





この論文は、単に統計学的な関係が論じられただけで、因果関係の証明がないのが最大の欠点です。彼らはこの点を素直に認めつつ、さすがはジョンブル魂、その要因がアルコールにあるのか、ワイン

副成分（香気成分や微量元素）にあるのかを徹底的に追求するとい、加えて白ワインと赤ワインのどちらがとくに効くかという重要な問題も未解決のままにしておくわけにはゆかぬ、と意気ますます軒昂。

神戸ワインがいよいよ出荷とききます。これを機に、ワインと成人病の研究に協力してみようではありませんか。しかし、飲み過ぎは困ります。心臓病は防げても肝硬変にならずにすむ道は、まだ開かれていないのです。

神戸新聞イイミミ医療相談より「一通話の医学」―成人編―（高石務著）を、愛読者先着50名様にプレゼントいたします。

この本は、神戸新聞イイミミ「キック局」育児・医療相談として掲載された記事をもとめたもので、的確に病気の症状をとらえ、わかりやすい文章でまとめてあります。ご希望の方は、ハガキに住所・氏名、電話を記入の上、神戸っ子編集室までお申し込み下さい。

## ジャズとス・ポーツ

鍋島 直規

△ビアニスト△

さる九月二日に行われた兵庫県マスターズ陸上競技選手権大会M五五クラス一〇〇米で運良く優勝することが出来た。先日三の宮の

喫茶店で小泉女史と出会いこの話をした所「鍋島さんジャズとス・ポーツと題して何か書いてよ」と言われ一瞬戸惑ったが、プロのジャズミュージシャンとしてス・ポーツを両立させることを信条とし、若いミュージシャンにもス・ポーツをやることを奨めていることもあって、おこがましいと思ったがお受けさせて頂くことにした。

昭和八年東京麹町の私立暁星小学校で秋の運動会が行われ僕も出場徒歩競走で一着になった。子供心にこの時から「俺は皆より速いんだ」と思うようになり、以来走ることが好きになった。

また、ちやうど小学校に入った頃から両親が僕にヴァイオリンを習わせたのである。僕の音楽とス・ポーツとの出会いである。中学に進んでからそれ迄あまり気乗りのしなかった音楽が好きになり、この頃からピアノもやるようになり戦後ジャズに移って行った。この辺の事は機会があったら又別に述べたいと思う。僕の母方の伯父に高木正行という人がいる。大正十



100mを13秒でゴールを切る筆者

年から昭和二年迄の間の日本の代表的スプリンターで十秒三の記録を持つている。そして無類のジャズ好きで、僕はこの伯父の影響大なる所があり尊敬している。娘の結婚式には僕のピアノ伴奏でスタンダードジャズを歌ってくれた。現在八十歳でなお矍鑠、東京に住んでいるが、僕はこの伯父夫妻に会いに行くのが楽しみの一つだ。

ス・ポーツは、厳然としたルールの上で行われる。ジャズにも和声学上の絶対のルールがある。そして何と言ってもス・ポーツもジャズも素晴らしいリズムが物を言う。そして両者とも美しい。オリンピックは美の象徴であり美しいジャズは人の心を捕える。体操の種目によってジャズを取り入れているし、スケート然り。最近ではジャズダンスで汗を流す人も多い。述べれば違が無いが。

ス・ポーツもジャズも多様化して華やかになって行くだろうが、僕は手が動かなくなる迄ピアノ・ヴァイブを弾きたいし、足が動かなくなるまで走りたい。

## 「オランダ人は日本酒が好き」

川池 勝志

△神戸市経済局貿易観光課長△

ジャパンインロッテルダム'84オ



上/オランダでも灘の梅酒は好評でした  
下/升酒で乾杯の音頭を（升酒を手に、左/土井芳子  
会長、左から2番目筆者）

ランダと日本の友好の歴史は古い。一六〇九年、オランダ船が平戸に入港、商館を設立し日蘭貿易が始まった。これを記念して、今年七月から約五カ月にわたって、ロッテルダム市が「日本・オランダ通商三七五年記念、総合日本展（ジャパンインロッテルダム'84）」を「極（きわみ）」のテーマのもと開催した。

そのなかで、八月一日から十九日まで「日本文化週間」が設けられ、帆船展、盆栽展など日本各地の参加のなかで、神戸市にも出展要請があった。ロッテルダム港とは一九六七年以来姉妹港であり、神戸市の紹介、ユニバーシアードのP・Rとあわせて、灘五郷酒造組合とともに日本酒を出展することになった。

また神戸市婦人文化協会（土井芳子会長）は親善使節団五十五名

を派遣した。

会場は市の中心部の広大な総合文化センター内で、白鶴、沢の鶴、大関、辰馬本家、宝、および大倉の六酒造メーカーが参加した。各社こもかぶりをはじめ大量の酒をもち込んだ。酒の製造工程パネルを始め、試飲コーナーを設けた。日本酒は世界でも数少ない燗（かん）をして飲む酒であり、酒燗器も用意。

テップカットと同時に、樽から梅酒をふるまった。燗をした酒にも人々が群がりおかしをかじりながら何杯もおかわりする人も多かった。しかし彼等は酔っぱらうことはしない、平然としているのは、民族の体格の差か。

「どこで買える」「わけてほしい」「値段は」などなど問い合せが多く、奮闘した酒造組合の美里さんの話では、灘の酒の輸出はだ

んだん増えているとはいえ、生産量のわずかに〇・五パーセント、しかもアメリカヘがそのうちの七〇パーセントでヨーロッパは微々たるもの。原因の一つにはやはり値段が日本の二・五倍ぐらいになることだ。

日蘭友好のために神戸デーを開いた。アムステルダムにシンエーフーズが店をもっており田中社長の陣頭指揮で和食中心のパーティができ、オランダ側から喜ばれた。アトラクションの民踊や空手も好評であった。

オランダは、九州と同じく広い面積だが国が低地の平原で、その四分の一は海面下にある。オランダ人が数世紀にわたる水との闘いによって造られた国である。生活水準は世界のハイレベルにあっても、生活態度は質素でダッチカウント（割り勘）というように見栄をはることがない。また堤防で守られた国だけに戦争は避けなければならぬ。わが国と同じ平和愛好国民である。また物価も安く、治安も良い。チューリップや風車だけでなく、ゆったりと生活している。

だから、オランダはゆっくり散策したい国の一つである。そしてもっとお互いに理解を深める必要のある国でもある。オランダに酒で乾杯!!

□夢エッセイⅡ□

# 南半球の夢

野口武彦（神戸大学文学部助教授）

この八月に三週間ばかりオーストラリアを旅行してきた。一度行ったとなるとその土地に親しみを感ずるのは人情で、観光案内の文句なども気になってくる。毎月あるクレジット・カード会社から送ってくる雑誌に、たとえばこんなことが書いてあった。「今回のツアーでは、コアラを抱けるフェザードル・ワルドライフパークをコースに組み込みました。コアラを抱いて記念写真を撮り、そして、コアラの飼となるユーカーリの木を記念植樹していただきます。きっと、コアラの国を旅した最高の思い出となることでしょう」と、まあこんな具合である。

別にいちゃもんをつけるつもりはないのだが、このコピー何となく気に入らない。さきさきでもワイルドライフパークを用意しているくらいだから、たしかに文句をいう筋合いではないのだろうが、たまにはコアラの身にもなってみたらどうか。まあカワイイなんていうのは人間の勝手な思いこみで、毎日ダッコされるコアラの方はたまったものではないだろう。聞けば、コアラは夜行性動物なんだそうで、してみれば開園時間は貴重な睡眠タイムではないか。それにも抗議できないほど天性おとなしい動物なのだそうである。それがいつのまにか観光資源にされてしまった。

もっとも、動物に対する感覚は民族によってかなり違うものらしい。それを痛感したのは、この大陸の北東部にあるブリズベンという町でのことだった。クイーンズランド州の州都である。年一回恒例の農産物展示会が開催されているとかで、ホテルは見るからに健康そうな農場主たちでいっぱい。みんな陽気で人がいい。それはともかく、ホテルのロビーに頑丈な檻がしつらえられ、牛が一头陳列されているのには驚いた。

檻に標札がついていて、Don't touch buttocks!（ケツにさわるな!）と書いてある。さすがはお国柄、牛のお尻をなでまわす趣味のやつがいるのか、とたいへん感心して同行者にその話をしたらげらげら笑われた。よく字を見ろといわれて見直したら、正しくは Don't touch bullock!（牛にさわるな!）でありました。小生最近では老眼と乱視が進んで、ときどきこんな見まちがいをする。ちなみに、bullock とは「去勢牛」のことだそう。いずれは食用に供される運命なのだろう。それにしても時期が悪かった。折からロスアンジェルス・オリンピックの最中とて、ロビーではテレビがつけばなし。そのホテルには五晩滞在したのだが、あわれやこの牡牛君、一日ごとに元気がなくなり、最後にはすっかりノイローゼ気味にな



っていた。巨体をワラの上にはいつくばらせて、うるんだ眼つきでこちらを見上げている。それを取り囲んで体重をあてるクイズをみんなでやっているのだから、やはり人情は国ごとにちがうものだ。

アメリカには「ディープ・サウス」(深南部)と呼ばれる地方があるが、反対にこの大陸には、「ディープ・ノース」という言葉があるのだそうだ。南の方が民度が高いとでもいったニュアンスなのだろうか。なにしろここオーストラリアでは、あたたかい北風が吹き、冬には(つまり日本



ハーバーブリッジを後ろにシドニイのロックで。左が筆者、右は宇沢弘文東大経済学部教授夫妻。

の夏にあたる月々には)身を切るような南風がはる。南極大陸の方角から吹き寄せてくるのだから。そうはいってもこの八月、せっかく整えていった冬仕度はあまり必要ではなかった。ダスターコート程度でも着て出てよかったと思ったのは、大都会では大陸最南端のメルボルンぐらいのものであろう。なにしろ島ではなくて大陸なのである。たとえば西海岸にある百万都市パースには、飛行機でざっと五、六時間はかかる。かなり身体にこたえるが、しかし現地で待ち受けているのは、インド洋の海の香りを運んでくるほとんど亜熱帯の風物である。スコールのような雨が町を洗い、湖にも似たスワンに雄大な虹が架かる。

オーストラリアにはまだ広大な自然が残っている。旅行者の眼から見て美しいだけではなく、同国人もそのことをはっきりと意識している。だが、そのうらやむべき自然環境は反面また、オーストラリアがいまだなお工業立国しきれずにいる悩みともつながっている。つまりは恵まれた自然をこのまま保護しつつけるか、それを破壊するのに眼をつぶって工業国化をはかるかという政策選択の問題である。どちらの道に進むかはもちろん他国人の口をさしはさむべき事柄ではない。しかし、北半球に住む人間が南半球に托する夢として話をするかぎり、この地上に一つぐらいいは汚染を知らない大陸が残っていてもよいのではないかという気がする。全人口わずか千五百万人のオーストラリアは、まだいまのところ、アフリカ大陸の飢餓も南米大陸の貧困も知らない。コアラを抱くのもけっこうだが、人間同士のつきあいはもっと大切である。

# 少年時代

東 君平 〈文と絵〉

ぼくの父は九州の佐賀の生まれで、母は静岡県  
の伊豆半島で生まれている。

その子供であるぼくの兄弟はすべて神戸生まれ  
で神戸育ちである。

ぼくの本籍は葦合区二宮町×の×となっている  
が、現在は二宮町でなく中央というらしく、どう  
して二宮町を中央にしてしまうのか残念な気がす  
る。

そこで戦火に遇って、今度は神戸駅近くの裁判  
所のまんに引越した。ここは生田区橋通といっ  
たが、今でもそう呼ぶのかどうか知らない。

ぼくはここで小学校を卒業するまで育った。小  
学校は新神戸駅近くにある雲中小学校という鉄筋  
三階建の学校だった。勿論、その頃は新神戸駅な  
ど無くて静かな環境だった。

そんな中で、ぼくは勉学に励んで云々と書きた  
いが、それがそう書けない事情がある。

今思えば、ぼくは小学生にして食道楽であつた  
らしい。いや、子供だから単に喰い意地が張つて



ただけと云えるかもしれないが、しかし、それ  
も、ちょっと当らない気もする。

ただ、腹一杯何かを食べればいいという、単純  
な腹の持主ではなかった。

要するに旨い物好きで、それさえ食べられれ  
ば、今ポケットにあるお金を全部払ってもいい  
と、その時思ってしまう子供だった。

屋台のタコ焼きが好きだった。

東京などではタコ焼にベタベタとソースを塗り  
つけて食べるが、やはり出し汁で食べなくては、  
ぼくなど気持悪くていやだ。そのタコ焼屋も氣に  
入りの屋台でないと決して行かなかった。

考えてみれば、これは空腹を満たすのではな  
く、やはり旨い物を食べたいという気持の方が強  
く働いているタコ焼喰いだっただけだ。

お好み焼屋も氣に入りの店しか行かない。とは  
いっても、子供のことだから、ちゃんとした店の  
暖簾をくぐる訳ではなく、これも屋台のお好み焼  
屋の話で、母からは「衛生に悪いからダメ」と

禁じられていた。

その好み焼屋のおじさんとぼくは大層仲良しだった。そしてそのうち、熊の顔や小犬の形に焼く幼稚な好み焼など、ぼくは食べなくなった。

「汁ばい焼いてちょうだい」

これが大の気に入りになってしまった。

これぞまさしく母が見れば、びっくり仰天する代物で「衛生に悪い」の最高峰と云っても過言ではなかった。

汁ばいという名称からしてもう何だか怪し気な気がする。

この作り方と食べ方はちょっと面白い。まず、薄く小さな円で粉を焼く。焼けたところで真ん中から半径を計るようにしてこてで切れ目を入れる。

それを手で持って、くるりと丸めると、三角帽子ができる。

そうしておいて、その中に又、メリケン粉の溶いたものを流し込んで、三角帽子を鉄板の上に伏せる。図で書けば、鉄板の上にメリケン粉で焼いた三角錐がポツンと立っていて底の部分だけが熱で焼かれている。

これで汁ばいは、ほぼ出来上がったことになるけれど、後はどのくらい帽子の中のメリケン粉汁に火を通すがこつで、そこところが、おじさんの腕の見せ所だった。

「熱いで、氣イつけや」

汁ばいの食べ方は三角帽子のてっぺんを、ちょっと千切って、熱くなった中の汁を吸えばいい。

要するに、多少は火が通ったことになるけれど生煮えのメリケンコ汁を食する訳で、旨いものであったけれど、子供のお腹にはいいとは思えな

った。

その他には、キツネウドンに目がなかった。タヌキウドンでもオカメウドンでもなく、キツネウドンが好きだった。

母からノートを買うといってお金を貰ってはキツネウドンを食べた。

父から教科書代だといって貰ったお金もキツネウドン代にしてしまった。

ある時は一生の想い出の卒業記念写真代までもキツネウドンにして食べてしまった。

この春、三十年振りの同窓会が三宮近くのウドン屋の三階であった。中には三十年間一度も会わなかった同級生もいた。

卓には大鍋でウドンすきが用意されていた。そういえば、神戸のウドンにも三十年近く会っていなかった。たった二時間、同窓会のためにだけ新幹線で駆けつけた慌だしい時間であったけれど、幼な馴染みと顔を合せたことや、懐かしいウドンを味わったことは忘れられない。今、机にその時のスナップ写真が何枚かある。

そこに写っている大鍋にもウドンの顔がチラリと見える。

近々母を連れて神戸へ行くことになっているので、機会があればウドン屋へ行こうと思っている。

母はもう七十五才になる。

神戸を離れて、かれこれ三十数年経つ。

どんな顔で駅に立つか楽しみにしている。



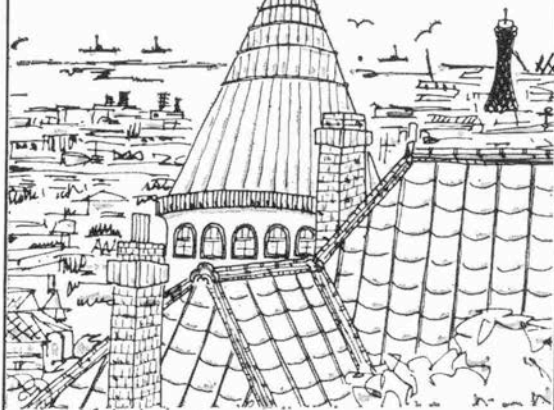
#### ▲著者紹介▼

ひがし くんべい／1940年、神戸生まれ。  
イラスト、絵本、童話など幅広い分野で活躍中。  
金の星社、あかね書房等より多数の児童書を発行している。東京都中野区在住。



Come back to KOBE!

また帰る日を願って  
あなたの青春を  
はこびます



神戸発全国便

小さな引越受付中

24時間営業 / 年中無休

【梱包便】電化製品、家具類、エレクトーン、自転車等  
美術品、骨董品（どんなワレ物でも御相談に  
応じます。但し地域限定）

ユーミノルサービス

(〒658) 神戸市東灘区住吉南町1丁目10-1

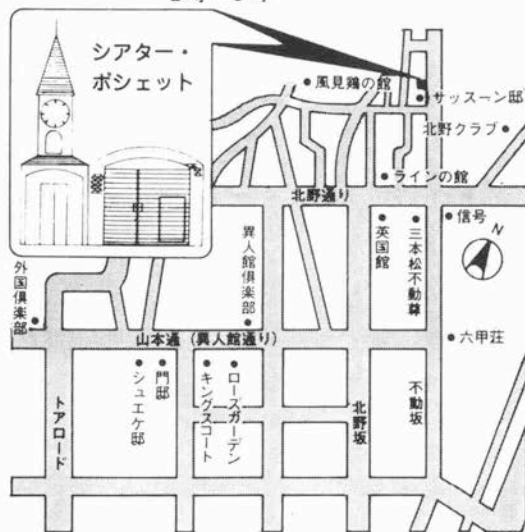
本社 ☎ (078) 822-1700 (代)

芦屋営業所 ☎ (0797) 23-6710

実験交流サロン

# シアター・ポシェット

11月3 / 4日 劇団ETC「星の時間」(作・別役 実)  
3日 6時 7時 4日 2時 3時  
18日 名曲サロンコンサート「チャリティ」  
釜田侑子門下生 2時~4時  
17日 ピアノ弾き語りコンサート  
安藤義則門下生  
22~25日 三島由起夫の文学と人生 話と展示会  
講師 ルイス・カナリス先生  
29日 秋の芸術祭参加「親子むすび」上映会  
2時~3時



## ★シアター利用のご案内

- 曜日、時間 / 土、日曜日 (通常) AM10:00~PM8:00
- 費用 / ホール設備の使用無料。光熱、空調、管理費のみ実費
- 付帯設備 / グランドピアノ・エレクトーン・録音、音響機器、ミキサー、照明コントローラー・テープレコーダー、マイク、映写機等
- お申し込み、お問い合わせ  
そごう前センター街東南角、さんちか入口

〒650 神戸市中央区三宮町1丁目5-1 住友銀行ビル6F  
佐本小児歯科 佐本進 ☎ 331-6302~3

△その62▽

# 台湾アミ族にみる

## 共感の場としての祭

磯 千秋 △武庫川女子大学講師▽



アミ族の村、東興村でのイリシン祭

台湾高山族のアミ族の村々では、八月中頃に祭が行なわれる。今は、全村統一の祭日を定め、月見祭と呼んでいることが多いが、古い資料によれば、この「イリシン」又は「ミリシン」の祭は正月祭と考えられており、粟の播種祭、収穫祭と並ぶ大祭とされている。つまり、粟収穫(今は稲)を終え、農曆の新年が始まるのである。しかし、これは、彼ら本来の祭では

なく、粟収穫終了後行われる台湾本島人の正月行事と集合したものであろう。

ところで、現在のイリシン祭は、各村あるいは教会を中心に、一〜七日間催される。簡略化されてはいるが、その中心イベントは、夜を徹して行なわれる唄と踊りである。村の男女が正装して円陣を組み、右足を基調に左足で変化をつける単調な踊り、「オイヤーハエイヤハー」の掛け声を主とする唄の繰り返しである。これが婉々と続けられるのは、老年組の若者組に対するしこきーたといは

平常の反抗や怠惰、踊りを休む、踊り方が悪いことに対して木でたたくと、一方では恋のかけひきの場(今はむしろ公表の場になることが多い)としての意味をも持っている。その唄は、主導する唄の上手がいて、それに唱和する形で進められる。一般に高山族の人々は唄に巧みなことで知られているが、殊に収穫を終え新しい年を迎える祭の場での唄声は格別である。同じようなフレイズの繰り返しだが、ある時は哀調を帯び、ある時は歓喜の響きをもつ。

ここで思い起こされるのが、日本の古代における歌垣あるいは燐歌(かがい)である。それは「常陸風土記」筑波郡の記事によれば「春花開時、秋葉黄節」、つまり春の豊作祈願、秋の収穫感謝の祭に付随した行事であつたろう。その折、燐歌が「かけ・あひ」と考えられるように、男女のかけあいで歌のやりとりが行なわれた。「住吉の小田を刈らす子奴かも無き、奴あれど妹が御為と私田刈」(「万葉集」巻七、旋頭歌)のような歌が、労働の場を背景にやりとりされたであろう。

目を転じると、沖縄にかつて存在した「もう遊び」、奄美大島の「折目踊り」「田植唄」などにみられる男女のかけあい唄、更に、中国雲南省やチベットの一部に行なわれるかけあいなど、歌垣と同じような「唄の場」をみるることができる。

歌、民謡とは、本来労働や祭儀の場において、かけあう形式として生まれてきたものであろう。それは、その場の人々の共感から生まれた詠嘆である。

秋祭が各地で行われる季節になった。地方の、神社を中心とする小規模な村祭には、村の歴史や生業から生まれる共感があろう。一方、都市で華やかに繰り広げられる祭は、参加する人々、見る人々のどのような共感に支えられているのであろうか。